

資料№4

三条市農業活性化プラン

平成24年度 実施状況一覧表

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

1 農産物の高付加価値化

事業名	担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
良質堆肥の有効利用検討事務	農林課	<p>対 象:市内農家 内 容:良質堆肥による農産物の高付加価値化を図るため、完熟堆肥化センターで製造する堆肥を使用して栽培された作物の品質が上質であることが想定されるので適正な分量等の割合と作物の栽培状況を実証試験で確認する。 実施日:5月～10月 3品目 目 標:良質な堆肥の適正な使用分量等の割合を明らかにする。</p>	<p>施設故障により計画した供給が不可能となり計画期間での実証試験は断念した。 堆肥40tを製造し、個々の農業者及び家庭菜園実施者75名が堆肥を利用した作物栽培に取り組んだ。</p>	△	<p>堆肥を試験施用した農業者は体験的にこの堆肥の価値を認識し始めており、自らが一部スーパーとの間で、良質堆肥を活用した農産物販売コーナー設置を検討始めている。 可能な範囲で聞き取り調査等継続したい</p>
ナノミストによる果実鮮度保持研究事業	農林課	<p>対 象:園芸農家ほか 内 容:果物等の鮮度を長期保持し、他産地と出荷時期を遅らせることで高付加価値化を図る。ナノミスト機械装置を活用し、これまでのルレクチェとシャインマスカットに加え、他の品目での活用の可能性について模索する。 実施日:11月～2月 目 標:実験で使用したシャインマスカット等を2月上旬に東京都で開催されたスーパーマーケット・トレードショーに出展する。 実証試験1品目</p>	<p>ルレクチェとシャインマスカットについて、最適に鮮度保持できるよう収穫時期や鮮度保持期間などを試行し、2/8～10にシティーセールス事業で開催したIID世田谷ものづくり学校における「三条のものづくりぐると体験フェスティバル」に農産物直売と併せて出展し、販売を行うとともに、レセプション時に同食材を使用した料理を提供。 また、このほか鮮度保持したシャインマスカットをクリスマスケーキ用に九州のお菓子店から受注を受け、1000粒販売。</p>	○	<p>シャインマスカットについては、12月のクリスマスケーキ用に販路が開拓されたことは、一定の成果があったと考えられるが、11月より鮮度保持を開始し、2月のイベントまで保管したものについては、房から実が取れてしまうなどの課題が残った。 また、ルレクチェについても、個体差があり中には割ってみたら中が黒ずんでいたといった個体があり、今後、保存期間などの検討が必要。</p>

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

2 販路開拓

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
荒川区・調布市・横浜市交流事業	農林課 営業戦略室 健康づくり課	対 象:荒川区・調布市・横浜市内小学校 内 容:安全・安心な三条産米等の理解を深め、荒川区・調布市・横浜市の学校給食に採用してもらい販路開拓を図るため、児童や保護者、教員を本市に招く稲刈農業体験と食育体験や出前授業などの交流事業を実施する。 実施期間:出前授業5校(5月～10月) 稲刈農業体験1校9月 目標値:販売数量5,500kg(H23は4,835kg)	出前授業は荒川区2校、調布市1校で開催し、稲刈収穫体験は荒川区1校で開催した。さらに荒川区1校で学校行事の際におにぎりを配布し保護者にもPR活動を実施した。この取組と販促活動により荒川区で新たに4校が採用。また調布市においても新たに1校の採用が決定した。 <H24実績> 荒川区8校・調布市2校・横浜市1校 販売数量 8,415kg	○	三条産米の新規採用校の増加の一方で、24年産米の米価の上昇傾向により、価格面において、これ以上上がるかと継続、採用が困難との意見が聞かれた。また、送料が別途であることから、それらの経費についても今後、発送元であるJAと協議が必要。
三条PR事業実行委員会	営業戦略室 地域経営課 商工課 農林課	対 象:首都圏、市外等 内 容:三条市固有の資源を発信し、市への誘客・定住を促進する事業の一環として、他地域において三条産農産物のPRを行い販路開拓につなげる。 実施期間:11月～3月 目標値:見本市への出店(H23は4回)	三条シティーセールス事業において12月開催の大阪箕面市農業祭に出展し、ルレクチェを販売。また2月開催の世田谷ものづくり学校での「三条のものづくりぐると体験フェスティバル」では、ナノミスト発生装置により鮮度保持したシャインマスカットとルレクチェを出展し、販売を行うとともに、レセプション時に同食材を使用した料理を提供。	○	施設全体を三条市で埋め尽くす「世田谷ものづくり学校」でのイベントは、三条に興味のある来場者に直接三条市をPRできる場であり、首都圏における新たな販売ルートの開拓にもつながることが期待できることから、今後も積極的に参加していくべきと考える。
中国向け新潟米輸出促進協議会事務	農林課	内 容:新潟県、新潟市、上越市、三条市、新潟県農業中央会、全国農業協同組合連合会新潟県本部で構成する中国向け新潟米輸出促進協議会が実施する事業に参画し、中国における新潟県産米や加工食品の販売拡大を図る。 実施期間:通年 目標:東日本大震災の影響で輸入停止措置となっていることから、解除後の協議会事業の再開	担当者会議を開催し情報交換を行ってきたが、中国の輸入停止措置が解除されないことから現地での試食宣伝会、レストラン関係者招へい、産地視察などを実施することが不可能な状況であった。	×	今後の動向を見定めながら、協議会への参加を継続。
スーパーマーケット・トレードショー出展	農林課 営業戦略室	対 象:食品スーパー流通業者など 内 容:ナノミスト発生機械を導入して鮮度保持を図った果物(ルレクチェ・シャインマスカット等)を流通業界に最新情報を発信するプロ向けの専門展に出展し、販路開拓の可能性を探る。 実施期間:2月 目標値:商談の成立	当初スーパーマーケットトレードショーに出展することとしていたが、三条シティーセールス事業で「三条のものづくりぐると体験フェスティバル」を世田谷ものづくり学校で開催し農産物販売、PRを行うこととなったため、当該ショーには出展しないこととした。 なお、このほか鮮度保持したシャインマスカットをクリスマスケーキ用に九州のお菓子店から受注を受けている。	×	今後は当該ショーには出展しない。ただし、消費者と直に接することが出来るイベントなどを活用し、積極的に販路開拓に取り組んでいく。

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
市場ピッキングセンターと連携した農産物の流通	農林課	対 象:市内全農家 内 容:市内産農作物を市場に出荷してもらい、ピッキングセンターを経由して市内コンビニ等に農作物を流通させる。 実施日:6月～11月 目標値:1農業者の出現	農家に対しピッキングセンターの利用を促進し、結果として1軒の農家が利用することとなり、初期の目標を達成した。	○	H25年度からは第2次農業活性化プランにおける「新たな日常販路の確立」として位置づけており、さらに流通が増加するよう活動する。

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

3 人財育成

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
農業担い手確保	農林課	【経営資質向上研修】 対 象:市内農業者 内 容:優れた農業経営者の確保・育成 実施期間:通年 目標値:認定農業者数現況480→目標477	人・農地プラン作成による地域の話合いや三条市農業担い手協議会との共催により、資質向上のための研修会を行い、担い手の確保・育成に努めたものの、認定農業者数の目標477経営体に対し454経営体と目標以上の減少となった。認定農業者への農地集積面積も、3,034.2ha→3,009.8haと減少しており担い手の確保・育成が必要である。	△	人・農地プランの作成を一層進め、地域の話合いから担い手への農地集積を進め、地域の中心となる経営体を確保・育成していく必要がある。また、農業経営の充実のための複合化や6次産業化を推進していく必要がある。
多様な担い手育成のための情報収集・提供・相談活動	農林課	【情報発信、相談活動】 対 象:市民 内 容:新規就農者、女性起業者の確保・育成 実施期間:通年 目標値:新規就農者1確保	多様な担い手確保・育成に向け支援を行い、新規就農者は人・農地プラン作成を進め1名の確保ができた。また、新規就農の相談もあり、就農のための研修を行う者も出てきた。女性起業は、近年起業した農業者6次産業化支援を行った。	○	人・農地プランの作成を一層進め、地域の話合いから新規就農者の確保を進めていく必要がある。また、女性起業者の相談は近年の起業者以外なく、起業のための意識啓発等を行っていく必要がある。
若い育児ママとの農業研修会	農林課	対 象:まるい今井邸に集う子育て中の母親 内 容:有機農業連絡協議会が講義実習指導 実施期間:6月～11月 目標値:講義1回 実習1回	日時:1/21 11:30～ 場所:まるい今井邸 参加者:農業者3名 ママさん10名参加 内容:軽食を取りながら食と農業の座談会	○	育児と食、或いは農業と食について見識を深めた。 今後農地見学や体験を含め、検討していきたいという前向きな機会となった。

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

4 地産地消

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
三条産米ブランド販路開拓	農林課 営業戦略室	対 象:全国 内 容:三条市とJAにいがた南蒲の協同事業として、三条市内で学校給食として採用している特別栽培米を全国に向けて販路開拓を図る目的でオリジナルパッケージを作成し販売する。 実施期間: 通年 目標値:良質な三条産米のPR	【H24年度販売状況】 ・化粧箱入(3個入/300g):1,600円/1セット 販売個数:99セット ・300g入:500円/1個 販売個数:335個 【取扱い場所】 JAにいがた南蒲、燕三条地場産業振興センター展示即売場、燕三条Wing、いい湯らてい、市内ホテル ほか	○	本市農業の強みの一つである三条産米を化粧箱に入れ販売を行ったことで、三条産米のPRに繋がったと手ごたえを感じている。一方で、化粧箱の印刷や、袋詰め等にコストがかかり過ぎてしまい、結果として販売価格を押し上げてしまっている。今後コストの見直しが必要である。
学校給食における三条産品利用促進打ち合わせ会	農林課 健康づくり課	対 象:学校・保育所給食 内 容:給食に使用する地元農産物の積極的な利用拡大を図る。 実施日:月1回(打ち合わせ会) 目標値:三条産使用量 カロリーベースで50%	地元農産物の使用計画に基づく打合せ、農産物の生育状況の確認、目合せ(規格検討)を各月で実施。 また、生産者との懇談会や、畑の視察などを行い、生産者と調理場との理解に努めた。 <H24実績> 33品目(米・卵・肉類・野菜)	○	天候不順による生育の遅れや早まり、目合わせした規格が揃わないなど、使用予定日に確定数量の確保が出来ないことがあり、対応に苦慮している。 (不足分は市場から調達)
しただ郷交流拠点検討委員会	農林課 営業戦略室	対 象:しただ交流拠点 内 容:建設支援 実施期間:通年 目標値:地元農業者等の意見を取り入れ集約した交流拠点として建設されること	準備委員会に移行 4/28 交流拠点施設オープン	○	地域農業者間の意識の差を乗り越え施設オープンにこぎ着けたことは意義がある。
しただ郷道の駅直売推進協議会	農林課 営業戦略室	対 象:三条市民(下田地区農業者等) 内 容:道の駅販売促進 実施期間:4月～11月 目標値:売り上げの向上	4/22オープニング 9/2夏忘れまつり 5/4 山菜まつり① 9/30秋野菜まつり 5/20たけのこ祭り 10/21秋味覚まつり 7/1 こどもフェスタ 11/11紅葉まつり 7/22夏野菜まつり 11/18さつまいもまつり 8/11～15お盆フェア 11/25大感謝祭 翌年1月 発展的解散	○	「悟空」から新たな施設「彩遊記」オープンに向け発展的解散をした。 今後、新施設運営に向け一層協力できる新たな組織体制が検討されている。
安全安心でおいしい地元産農産物の購入の拡大サポートに関する事務(地産地消システム運用)	農林課	対 象:生産者、消費者等 内 容:既存の流通における三条産農産物の認知度を上げる取組を先行して行いながら、出荷量の増加と市民への安全・安心な地場農産物の安定供給を目指す。 実施期間:通年 目標値:市民へ三条農産物の安定供給	三条産の目印となるラベルシールを80万枚作成。生産者・小売店等に配布し三条産農産物に貼付して販売。想定以上の利用があり、40万枚増刷。(H24年度83万枚のシールを配布。) また、健康マイレージ制度と連携し、ラベルシールのポイント化を実施。集めて応募してもらうことで年度末に景品を進呈。 <H24年度応募数> 970口	○	健幸マイレージ制度と連携したことで、相乗効果によりシールの認知度が上がり、消費者への地産地消の意識啓発にもつながった。 しかし、健幸マイレージ手帳とシールの整合性が取れていない、制度が周知し切れていないといった運用面での課題が残った。

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
地産地消推進店「三条まんま塾」委託事業	農林課 健康づくり課	対 象:地場農産物等を積極的に取り扱う市内の小売店及び飲食店等 内 容:認定基準に該当した地場農産物等の産地区分に応じて階級を付して、推進店として認定 実施日:随時 目標値:H24年度新規登録40店以上	H23の制度開始より125店舗を推進店として認定。 H24年度は41店舗を新たに認定した。 申請全体では当初から128件の申請があったが、閉店などを理由に3店舗から認定辞退の届があった。 また、地産地消推進店マップ、地産地消啓発冊子「三条をいただきます」を各1万部発行。	○	三条まんま塾と連携することにより、今年度の目標値である40店舗を超える認定を行うことができたことや、地産地消推進店マップの発行、人とのつながりを題材にした地産地消啓発冊子の発行を行うことができた。また、制度そのものを広く捉えることで、単に店舗を認定するだけでなく、様々な切り口から地産地消の推進が図られたものと評価できる。
地産地消フェア「三条まんま塾」委託事業	農林課 健康づくり課	対 象:市民 内 容:三条マルシェに地元飲食店と連携し、地場食材を使用した飲食物の販売を行い、地産地消をPRする 実施日:9月・10月(マルシェ) 目標値:2回開催	当初9月・10月のマルシェに合わせて2回開催を予定していたが、飲食物の販売(お通しサミット・給食レストラン)と直売市を分けずに同時開催することで地産地消の更なるPRが期待できることから、10月の大規模開催に一本化し、情報提供コーナーと併せて開催した。	○	給食レストランや推進店と連携した直売所を開催したことで、多くの市民に三条産農産物のPRが出来た。また、情報提供コーナーを設けたことも啓発の一躍を担った。 一方で、大きくなりすぎた会場により、地産地消フェアがマルシェの中の一出展と位置付けられてしまった感もあったが、飲食店と直売所を運営する生産者が連携することができたことは一定の成果があったと評価できる。

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

5 食育推進

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
小中学生の農業理解促進(学校教育田活用)	農林課	<p>【学校教育田の実施】 対 象： 市内 22小学校 内 容： 協力農家と一緒に田植えから稲刈りまでの作業を体験し、農業や米に対する理解を深める。 実施日： 5月～11月 目標値： 農業や米に対する理解が深まった生徒が生徒が80%以上</p>	<p>市内22小学校において、田植と稲刈りの作業を体験した。農業や米に対する理解が深まった生徒が、小学校のアンケートから90%と目標を達成した。</p>	○	<p>高齢化等により協力農家の不足が懸念される。また、学校教育田の実施に当たって、小学校と協力農家の一層の円滑な運営協力体制が必要である。</p>
「三条まんま塾」推進活動	農林課 健康づくり課	<p>対 象： まんま塾 内 容： まんま塾の活動支援 実施期間： 通年 目標値： 活動参加者の向上</p>	<p>参加者のべ人数：1,661人 通年事業 ・旬の食材PRリレー ・さんじょう情報広場の運用 ・FM放送 みんなでまんま(毎週水曜日放送) ・Facebookの活用 5月 ・基調講演「山形ガールズの挑戦」 ・プチ畑プロジェクト 6月・7月・8月 ・農業体験ツアー 9月 ・食と農で元気アップ講座「食べ物の本当の課価値を考える。」 10月 ・お通しサミット、給食レストラン 11月 ・食と農で元気アップ講座「川から学ぶ米の価値」 12月 ・しみん食育と農業のつどい「湘南の風に吹かれて豚を売る」 2月 ・食と農で元気アップ講座「食品の裏側」</p>	○	<p>参加者の意識は高い反面、活動参加者が固定し始めていることも危惧され、さらに底辺拡大と意識向上を図りたい。</p>

平成24年度 農業活性化プラン推進 事業計画

6 環境保全

事業名	主担当課等	計 画	実施状況	評価	反省及び課題
環境保全型農業推進に関する事務	農林課	対 象： 全農業者 内 容： 環境保全型農業(3割・5割減々・有機)の取組み拡大 実施期間： 通年 目標値： 5割減々・有機栽培の取組み拡大	3割減々 2,384ha 5割減々 524ha 有機栽培 30ha	○	農薬や化学肥料を減じた栽培は定着してきたものの、有機栽培や5割減々栽培など高度な技術的課題を克服するに至らず、取組面積は横ばい状態である。
環境教育・保全活動のサポート	農林課	対 象： 三条市民 内 容： 田んぼの生き物調査推進(まんま塾・農地水関係事業・戸別所得補償環境支払) 実施期間： 6月～8月 目標値： 250人参加	8/18(土): 大島PTA主催 76名参加 7/28(土): 上大浦 25名参加 計101名	△	H24からの第2期農地・水保全向上対策の事業としては必須条件ではないことになったことから、これまで三条地区の複数の保全会の取組が目標を達成し取止めたことから減少した。
良質堆肥の広報	農林課	対 象： クリーン三条(堆肥生産組合) 内 容： 堆肥のPR 実施期間： 通年 目標値： 活用農業者の拡大	H24夏季に換気故障による一時堆肥撤去の問題が生じ、搬出できない事態が生じた。堆肥40tを製造し、農業者及び家庭菜園実施者75名に販売した。	○	堆肥使用農業者が組織するグループ自らが一部スーパーとの間で、本堆肥を使用した農産物販売コーナー設置を検討始めている。